

心臓アミロイドーシス早期診断のための心エコー検査所見の解析

研究キーワード

心臓エコー検査、ストレイン解析、心臓アミロイドーシス、早期診断

研究概要

アミロイドーシスは、全身性にアミロイド蛋白が沈着することによる臓器障害を引き起こす疾患の総称で、とりわけ心臓に沈着した心臓アミロイドーシスにおいては予後不良な疾患である。アミロイドの種類にはALアミロイド、ATTRアミロイドに分類され、近年ATTRアミロイドーシスに特異的な治療薬が開発され、予後改善効果が示されたことから、早期診断の意義が高まっている。

本疾患に特徴的な心エコー所見として、びまん性左室肥大、右室壁肥厚、心房中隔の肥厚、心膜液貯留、ストレインを用いた収縮能解析によるapical sparing patternなど(右図)が挙げられるが、これらの有名な所見が揃った典型例はいわゆる進行例であると言われる。アミロイド沈着によって肥大した心筋は治療薬によって退縮はしないため、病気の進行を抑制する効果であるため、早期発見が望ましいのは他疾患と同様である。

そこで、アミロイドーシスと診断された症例の過去の心エコー所見を解析することで、早期発見につなげられる所見を発見することを研究目的としたい。

SA学生さんへのアピールポイント

循環器内科診療において心エコーの判読は要です。それは心臓が「動きが重要」な臓器だからであり、CTやMRIの静止画像では捉えることのできない、動的異常をリアルタイムかつ低侵襲に検出することができるのが心エコー検査だからです。静止画で捉えられないということは、国家試験の勉強からは学びにくいということで、このデータ解析を通じて心エコーの見方を学び、国家試験合格後に一步リードとした研修医になってみませんか。今回はアミロイドーシスを例にして研究テーマとしていますが、アミロイドーシスに限らず肺高血圧症などでも計画しています。

